

モデル事業名	再生された廃校を活用した高齢者地域のコミュニティ活性化支援事業
活動団体名	特定非営利活動法人 ひと・学び支援センター熊本
ホームページ	http://www.hssck.or.jp/
所属/担当者名	事務局長 松崎 景子
連絡先	096-354-7252 info@hssck.or.jp
活動地域	熊本県天草市牛深町元下須・天附地区（下須島全域）

● 活動地域の概要

熊本県天草市牛深町に位置する下須島は、天草諸島南端に位置し、面積4.5平方km、669世帯、人口1,410人の島である。かつての基幹産業であった沿岸漁業の衰退により人口流出と高齢化（高齢化率40%）が進行し、地区内にあった天附中学校が平成17年3月に廃校となるなどコミュニティの活力低下が大きな課題となっている。



【位置図】



【廃校となった中学校の全景】

● 活動地域の課題

高齢者が多い当地区においては、高齢者の「健康の維持」、「移動手段の確保」と高齢者の「平日日中の非常時の対応」等の課題を抱えおり、H20年度事業で下須島全世帯を対象に実施したアンケート結果及び地域のオピニオンリーダーから構成したワークショップでも、住民の交流についての課題は「定例の行事（催し物）も無くなった」「若い世代と高齢者の生活パターンが違う」「移動手段がないのでコミュニケーションが活性化しない」などに集約されていた。

このように、限界集落に近い地域においては「井戸端拠点」となる機能の再生が有効と思われ、その拠点を集落機能の中心と捉えた場合、生活機能（買い物、郵便、医療、文化・交流等）の集約化を図ると同時に交通手段の確保と組み合わせ、コミュニティ活性化のために課題解決型の活動を展開する必要性が生じた。

● 活動の内容

（全体）

- ・平成20年度
 - 活動① 地域課題の発掘
 - 活動② 住民による地域課題解決のための仕組みづくりと共有
 - 活動③ ミニ社会実験の実施運営と地域住民によるふりかえり
- ・平成21年度
 - 活動① デマンド型乗合タクシーの試験運行を目標とした検討協議会の設立運営
 - 活動② 高齢者の移動手段の実態把握とコミュニティ再生への検討

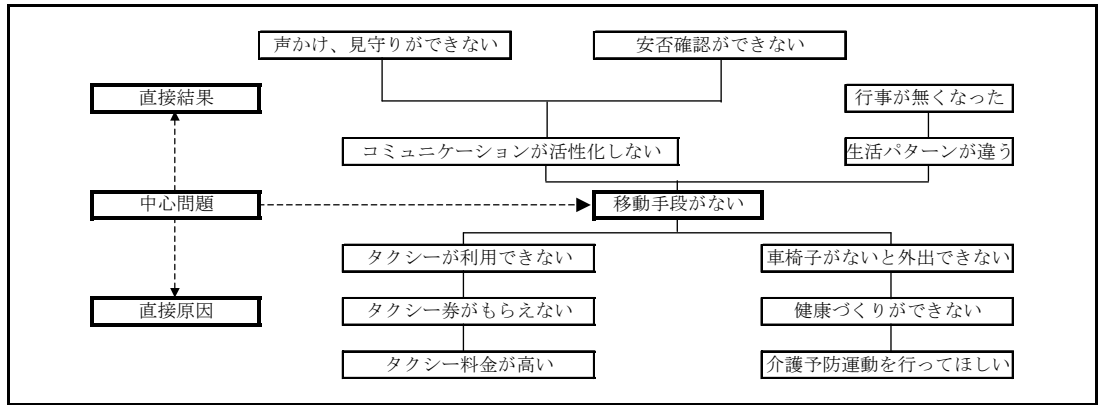
（直近1年間の進捗など）

本活動の拠点である多機能型複合施設「南風ん風」運営協議会において、地域課題として配食サービスに関する課題が取り上げられた。よって、食事が不規則になりがちな一人暮らしの高齢者を対象に、安価でバランスのとれた食事の提供だけでなく、気軽に立ち寄れる憩いの場や情報交換の場を目指し、高齢者の社会参加を促すことを目的として地域の有志による「南風ん風」に併設しているレストランを活用した「ONE コインデイ」を実施した。（ONE コインデイ＝100円で昼食を楽しんでいただけるサービス日）

- 第1回 平成22年5月15日
- 第2回 平成22年6月22日
- 第3回 平成22年10月9日

● **活動の成果**

・全体
平成20年度



【整理された課題解決のための問題系図】

平成21年度

島の唯一の交通手段であった渡船が平成21年8月末をもって廃止されたことと、当初予定であった「デマンド型乗合タクシーの実施・運営」の中止に伴って、渡船廃止前後における高齢者の移動実態が明らかになった。

- ・島外に週に1~3回は外出するという高齢者が全体のおよそ70%を占めていた。
- ・その移動手段は家族が所有する自動車や病院等による送迎車に頼っている。
- ・渡船廃止後に移動手段に変化があった高齢者は半数以上を占め、その6割以上が渡船からタクシーに移動手段を依存し、廃止後に「島外へ行かなくなった」や「外出をしなくなった」と回答する高齢者も多く存在している。



以上のように、離島や中山間地域等にある農山漁村ではコミュニティ意識が浸透していると思われていたが、超高齢化していく下須島の将来像を鑑みた場合、移動が困難になればなるほどコミュニティが薄れ、新しい地域コミュニティによる住民主導の地域経営が求められることが判明した。

・直近1年間の成果 (ONE コインデイの活動結果)

第1回：利用者数11名 第2回：利用者数25名 第3回：利用者数20名

本活動の目指す成果は、多機能型複合施設「南風ん風」が地域の福祉・交流の活動の拠点をして活用され、地域住民の福祉と交通が充実し、コミュニティの再生を図ることである。今年度の活動によって、福祉事業の収益を地域交流支援に還元し、運営・管理まで完全に地域単独で賄うことができたことで、廃校を活用したコミュニティ活性化の一步を踏み出した成果としては大きいと言える。



● **今後の課題及び展望**

・課題

「福祉移送サービスと高齢者の移動の確保との併用サービスの創出」や「高齢者生涯学習と伝統的祭事継承の両立」など、高齢者支援がそのまま市民活動の内容と一致させ、整合性を図りながら雇用の促進に繋げることが今後の課題である。

・展望

将来的に、21年度に実施できなかった移送サービスを構築し、島外者（観光客）の足として、島内に点在する観光スポットや滞在型ツアー客の移動手段として利用できるようにしたい。

このように、住民に最も身近な基礎自治体である市町村の手の届かない範疇であった課題を、住民主体によって解決し、実践していくことで地域の担い手発掘・地域リーダーの育成・地域振興にも繋がるものと確信しており、さらに、災害時や緊急時の不安解消の課題にも、限界集落と呼ばれる地域における高齢者の安心・安全が強く求められていることから「南風ん風」を下須島の防災拠点として機能できるように施設整備や体制づくりへの取り組みも考えていきたい。

● **その他（自由記述）**

平成21年度当初計画の有償の実証実験が実施できなかった点が大きな反省点である。これは、地域ニーズと課題について、地元行政内への市民活動への理解が未だ浸透していない表れであり、提案段階の推薦した担当部署だけの参画だけで庁内調整を図ることができなかったのがその原因として考えられる。そのためにも、市民、市民公益活動団体、事業者、行政が対等の立場に立ち、市民協働の地域づくりが重要と思われ、その市民協働の活動を直面的に支援する地方公共団体の関係各課を横断的に総合調整する「市民協働」の担当セクションの設置を天草市に要望していきたい。